

職員による自己評価

A環境面

- 現在は、定員が充足していない事や身辺処理が必要な利用者が少ないので、適切な空間が保ててるが、利用者が増えた場合、訓練室や出入り口等のスペース確保や支援者の支援力が課題となる。

B児童への支援内容

- ケース会議やプログラムについての会議等を行うなど、支援や業務の目的設定と、振り返りの流れはできているが、日々、個々の職員が意識共有をもって行えていない。
- 本年度、開所したので、事業所自己評価シート等の実施できていない。今後、アンケートを実施し、改善に繋げたい。

C関係機関との連携

- 基幹相談支援センターや他の放課後等デイサービス等と連携を図っているが、現在、医療ケアが必要な利用者がいないので、関わりがない。また、就学前の情報については、家族からの聞き取りのみとなっている。

D保護者への説明責任・信頼関係

- 日々、『連絡帳』や送迎時の口頭でのやり取り等を行っている。また、保護者交流会を開催している。しかし、主にお母様が参加しているので、今後、お父様へのアプローチも検討が必要である。

E非常対応

- ひやりハットに関する会議や支援計画に基づいて、怪我やトラブル等の事故防止には努めている。
- 避難訓練の実施しているが、保護者には十分な説明ができていない。

保護者による評価

A環境面

- 活動スペースや職員数等の環境・体制整備の問題はない。しかし、比較対象がないので、適切なかが分からない。

B児童への支援内容

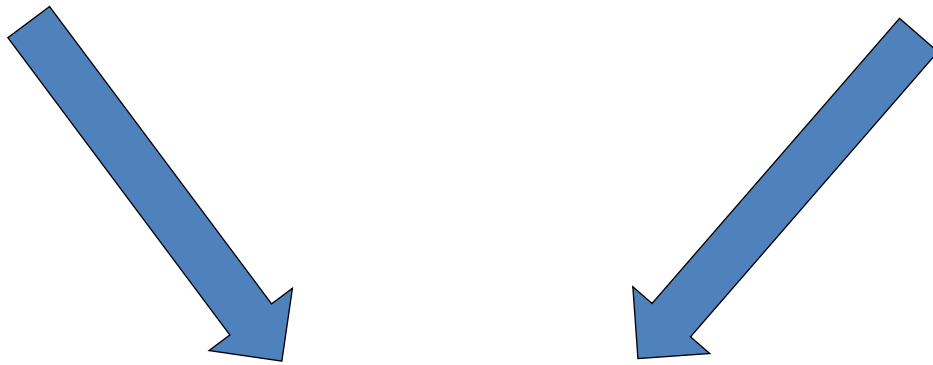
- 支援計画は丁寧にできている。また、その時期に合わせたイベントができ、子どもが楽しみにしている。しかし、障害がない子どもと活動を行う機会が少ないので、交流の場を増やして欲しい。一方では、学校の場で交流プログラムがあるので機会を作らなくても良いとの意見があった。

C事業所からの情報発信

- 支援内容や状況等、基本的な説明ができています。しかし、質問に対し、『どちらともいえない』との回答があり、不透明さがあるように分析ができる。

D非常対応

- 対応方法が十分に伝わっていない。



事業所内での分析

【共通点】

現在、適切なスペースの確保はできている。

支援計画はできており、丁寧に説明ができています。

障害がない子どもとの交流の場や近隣との交流の場などの機会が少ない。

情報発信に関しては、支援内容や日々の様子の共有はできているが、緊急時の対応方法の情報提供までが不十分である。

【相違点】

職員：将来的な課題を挙げている事が多かった。

○利用者が増えた場合の支援力やスペース確保が課題となっている。

○医療ケアが必要な時の対応方法の確立)

個々の職員が目的共有した支援までには至っていない。

避難訓練の実施はしている。

保護者：事業所からの情報発信については、『どちらともいえない』との回答が多くある事や緊急時の対応方法について、十分に伝わっていないなど、保護者に十分な説明ができていない。

分析・検討してみて…

事業所の強み

- 事業所がスペースや人員確保が整っている
ので、柔軟な対応ができています。
- 保護者交流会を開催しており、家族支援に
繋がる仕組みは作っている。

事業所の改善点

- 緊急時の対応方法等の事業所全体の取
組みが十分に説明できていない。
- 日々の支援に関し、支援者全員が共有した
意識が持てていない。
- 母に対しての家族支援は取り組みをして
いるが、父に対しての家族支援は行えてい
ない。

事業所の改善への取り組み

- 緊急時の対応方法など、事業所で定めて
いる計画やマニュアル等の資料を配布する
と共に、保護者を集まる機会があった時
に説明を行っていく。
- 日々の支援が共有できるように、ミー
ティング時に支援の方向性の確認を行う。
また、振り返りを週1度のペースで行い、
改善に努めていく。
- 父への家族支援に関しては、父のニ
ーズを調査し、どのようなアプローチを
図るか検討していく。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

- 平成29年度4月から開設し、初めての
事業所自己評価シートを実施しました。
事業所支援員と保護者から評価シートを
記入してもらい、今後の事業展開の不
安や保護者へ十分な説明ができてい
ない点など、様々な課題や不安を抱え
ている事が再確認できました。今後、
利用者支援、保護者支援を考えていく
上でも参考となりましたので、定期
的な評価シートの実施を行ってい
きたいと思います。

事業所名 _____ ピース和田町 _____

担当者 所長 中原 裕介 _____